

百人一首を書きましよう。

筑波嶺の 峰より落つる みなつくばやまの川

恋ぞ積もりて 淵つみとなりぬる

陽成院

陸奥むつぎんの しのぶもぢずり たれゆるむつぎんに

乱れそめにし われむつぎんならなくに

河原左大臣

君がため 春の野に出でて 若菜摘む

わが衣手に 雪は降りつつ

光孝天皇

立ち別れ いないなばばの山の 峰いなばに生ふる

まつとし聞かば 今いなば帰り来む

中納言行平

【現代語訳】

筑波山の峰から流れ落ちる
みなつくばやまの川が積もり積もって
深い淵つみとなるように、
私の恋心もどんどん深く
なるばかりだ。

【現代語訳】

陸奥産むつぎんのしのぶずりの乱れ
模様のように私の心も乱れ
ているのは、他ならぬ貴方の
為なのです。

【現代語訳】

貴方に差し上げる為に春の
野に出て若菜を摘んでいる
と、わたしの袖に雪が降り
かかっておりました。

【現代語訳】

貴方と別れいなば因幡の国へ
行っても、いなば稲羽山の峰に
生える松のように貴方が
待つと聞いたならすぐに
帰ってきます。